

構造計算書偽装事件をうけて

構造設計者の信頼を取り戻し地位の向上を得る必要がある。そのためには早急に具体的な行動を起こさなければならないと考える。

もちろん今までと仕事に対する姿勢は変わらないが、以下のような具体的な行動方針をあらためて社内で確認するものである。

目標 耐震性能の不足した建物の根絶、そしてより安全な建物の設計。

行動 設計方針及びモデル化の提示。設計中のミスをなくするための社内ピアチェック。

結果 安全な建物が完成し、結果として信頼と地位の向上を得る。

最近話題になっている構造計算書偽装事件は、法律で定める基準値に比べて、極めて低い耐震性能の建物を構造設計者が意識的に設計したものである。それは犯罪であって、設計者の行為は論外である。しかし、そのような事件とはまったく違うが、構造設計という膨大な数値を取り扱う作業の中で、ちょっとした入力の間違いや勘違いによって、法律に抵触する建物を設計してしまう可能性がある。もちろん、耐震性能の劣る建物を設計してしまえば、至った経緯は違うが結果は偽装行為となんら変わらないものである。したがってどのような理由があったとしてもミスは許されないことである。

そこで、以下の手続きを行うことで、法律上の設計ミスを防ぎたいと考える。さらに我々はより高度な工学的な判断により、高い耐震性能を持つ建物を設計したいと考える。

具体的な行動として客観的な数値検証を行う（特にブラックボックス化した一貫計算結果の妥当性の証明）。さらに技術者としてのプライド（職人氣質）を構築するため、設計をはじめの前に方針書を作成し「ものづくり」の原点に帰り創る意識を待つ。

検証方法は、一貫計算プログラムが導入される以前に行われていた、いわゆる「手計算」当時の設計手法を利用し、概算的に数値の妥当性の検証を行う。

また、構造計算をはじめの前に設計方針書を作成することで、設計に対する意識を高めたい。方針書の内容は、

- 構造概要
- 設計方針
- 構造計画
- 施工上の配慮

以上の項目を中心に作成する。

方針書の作成は、次の事をイメージして作成すること。

- 建物に対する想い
- 設計依頼者及び建物を使用する人
- 建物を工事する施工者

そして計算終了後、作成した構造計算書の内容を社内で説明すること。

以上の確認及び検証プロセスにより、単純ミスを無くし、構造設計技術者として、より安全な建物を提供します。

偽装事件がマスコミで報道された後、社内では何度も会議を行い、会社でとるべき行動や、絶対にミスを起こさないための対策を話し合った。

その結果を踏まえて、私の考えをホームページ上に声明として載せたが、社員から「いかにも自分たちが偽装していたというような誤解を招く」との意見があって削除した経緯がある。

偽装とミスを同一レベル取り上げる風潮や、構造事務所は下請け的な立場で圧力に屈しているというような、事実とは違う報道が興味本意で流している現状を考えると、その文面が、誤解を招く可能性を否定できないので前回の提案書は削除した。しかし、そろそろ技術者の将来を見据えて発言すべきではないかと思い「会社としとるべき行動」を作成し直し、ホームページ上に表明するとともに、社内でも徹底するよう指導することにした。

報道で明らかのように、我々の労働環境はとても良いとはいえない。けっして高いとはいえない給料体系であったり、非常に長い労働時間を強いられたり、土日を使つての納品を要求されたり、そして大きな地震のたびに行われる法律の改正など、愚痴を言ったらきりがない。したがって、昨今の合理的に効率よく所得を得たい人や、仕事より家庭を中心に考える社会状況の変化の中で、後継者が育たず構造設計業界は高齢化が進んでいるのが事実である。そのうえ、はからずも世に出た構造設計者は、なんと犯罪者だったわけで、技術者の育成はさらに難しくなっていると思う。

しかしこんな時代であるにもかかわらず、私が非常勤講師をしている受け持ち学生の中に、「構造設計に興味がある、是非会社訪問をしたい」という若者がいて、そのことによつてとても勇気づけられた。

私どもは、そのような可能性を秘めた若者のためにも、そして私達自身のためにも、業界の信頼と技術者の地位向上を目指し、冷静に誠実に仕事に取り組まなければならないと考える。

できるだけ快適で魅力的な執務環境を作り、より安全で安心できる構造物を提供できるように一層の努力をいたします。

仙台市青葉区上杉二丁目1番10号
株式会社 構造計画
代表取締役 井上 剛志